NIE実践報告

1．タイトル：☆世の中と授業をリンクさせるための新聞の活用の在り方について

2．学校名

宮崎県都城市立有水中学校

3．実践者名（代表者名）

宮本　和典

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会･公民　22人

6．単元（本時の学習課題）名

大単元:「国際社会と世界平和」　中単元:主権国家と国際社会

7．目標（狙い）

実際に起きた国後銃撃事件から、北方領土問題の今後について考えることで、それぞれの国家が主権を尊重し合うために何が必要なのか気づく。

8．評価の視点

個人の意見を出し合い、集団で練り合う活動を通して、北方領土問題の解決の困難さに気付き、そのことをワークシートに記述することができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

本単元は、全6時間で構成されており、本実践は、導入部にあたる。関心･意欲を高めるために社会で起きている事象を扱った。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

宮崎日日新聞の国後島沖漁船銃撃事件(1月29日)の記事を導入材料に「なぜ、自国の領域内で、銃撃を受けたのだろう」という矛盾に気付かせ、北方領土問題の定義について整理した。その後、この問題を解決するために自分が日本国の首相ならどういう解決策をとるかを個人で考え、その意見を持ち寄り、班で解決策を練り合い発表した。

次時において、前時の復習を兼ねて、実際の政治交渉では、どのような解決策がとられているのかということを紹介し、生徒案の解決策との比較を行った。併せて宮崎日日新聞に北方領土返還要求宮崎県民会議主催によるキャラバン隊が2月7日の北方領土の日に宮崎県庁で出発式を行ったという記事を紹介することで政治家だけではなく、北方領土から遠く離れた宮崎県でも市民レベルで返還実現に向けた取り組みが行われているということを紹介した。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

･新聞記事を見て、教科書で学んだことが身近な問題として起きていることに驚いた。
･毎日、新聞の一面を見るようにしている。今後もこの問題の行方に興味がある。

12．成果と課題

[成果]　授業で習った(習おうとする)ことが世の中(社会)とつながっていると感じた時に、生徒は意欲が増す。主体的に考え続ける生徒の育成のためにも新聞を活用した授業の意義は大きいと感じた。
[課題]　主体性を高めるだけではなく、例えば、読解力を高める手立てとしても新聞は有効であると考える。今後は、ターゲットスキル･アビリティーを教える側の教師が明確にした上で、活用しなければならない。また、社会科だけではなく、各教科における新聞を活用した授業の在り方について、研究を進めなくてはならない。